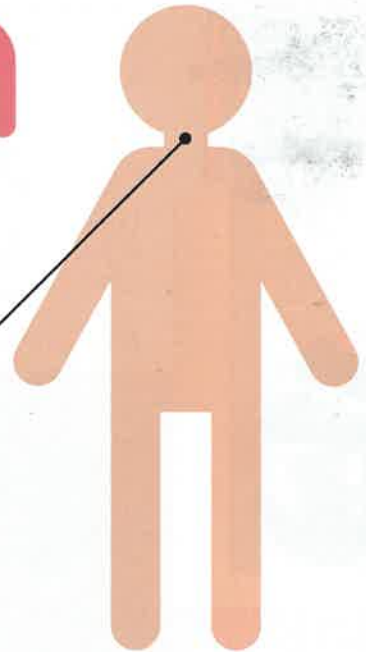


# 臓器のはなし



## 今月は 咳、のどの違和感

### 風邪から腫瘍まで 危険を知らせるサインとは

1か月、咳が続いたら 風邪以外の病気を疑って

コンコンと表現されるような、乾いた咳(空咳)は、風邪のひき始めの症状と考えられます。逆に、痰を伴う、湿った咳は、風邪で免疫力が落ちて二次感染(細菌感染)を起している可能性があります。さらに進行すれば、気管支炎や肺炎を招く恐れ

もあるので注意してください。

咳が続けば体力を消耗し免疫力低下につながるのです。対処療法として咳止め(鎮咳薬)を使い、黄色の痰が出るような時は細菌感染を疑い抗菌剤を 사용합니다。ただし高齢者の場合、飲食物が気道(気管)に入ってしまった(誤嚥)時に、吐き出そうとして起こる咳は、止めると肺炎になってしまう恐れがあり、注意が必要です。

花粉やハウスダストなどのアレルギーー反応により、決まった時期や場所が出る咳もあります。

咳が長引く場合は、重い病気かもしれない。たとえば結核は、咳や痰が主な症状。若い人でも、調べたら結核だったという話もよく耳にします。

一番怖いのは、悪性腫瘍による咳。1か月経っても治らない場合は、医療機関の受診をご検討ください。レントゲンやCT等の検査を受けることになるでしょう。

まず内科で診察を受け わからなければ耳鼻科へ

花粉症などのアレルギーで鼻水が

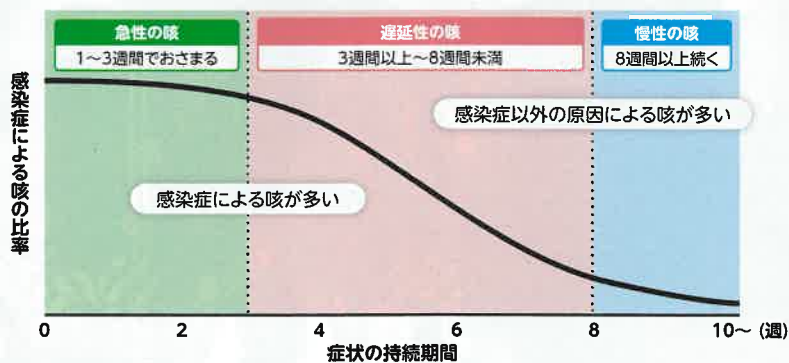
止まらず、のどの奥まで降りてくる状態を後鼻漏といえます。鼻水が喉に入ばり付くと不快になり、気管支はその異物を外に出そうとゴロゴロ強い咳が出ます。これによって、のどの粘膜を傷めてしまう人も多いそうです。

飲食物がのどにつかえたり、飲み込みづらくなる違和感。その原因として怖いのは、咳と同じく腫瘍です。鼻から食道の入り口までの部分、咽頭にできた悪性腫瘍が進行して症状が現れることがあります。

糖尿病の神経障害が進行した場合や、パーキンソン病等の自律神経障害が進行した場合には、嚥下(食べ物を食道から胃へと送り込む一連の動作)の機能が落ちて、同じくのどに飲食物が残りやすくなります。

人間ドックなどの内視鏡検査では、基本的に食道以降を調べます。それより上の咽頭や喉頭などを診るのは、耳鼻科の先生だと思えます。咳やのどの違和感がある方は、まず内科で風邪などの診察を受けて、原因がはっきりわからなければ、次に耳鼻科を受診するという流れになります。

症状の持続期間と 感染症による咳の比率



出典：『咳に関するガイドライン第2版』(日本呼吸器学会)より作図

監修

浅海 直  
あさうみ すなお  
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。